

頁	行	誤	正
161 (14)	12	「できるだけ、瀬一杯」の意に	「できるだけ、精一杯」の意に
173 (2)	21	「不本意(不十分)ではあるが、ぎりぎりのところまでは	「不本意(不十分)ではあるが、ぎりぎりのところまでは
132	上 5	じゃあ、一安心したわけだ。	じゃあ、ほっとしたわけだ。
128	上 19	立原正昭『冬の旅』789	立原正秋『冬の旅』789
122	下 2	稀に(38) g・hのように、	稀に(38) e・fのように、
121	下 20	義務を表わす論理詞だとすると、	義務を表わす論理子だとすると、
119	上 20	殊に b の「世の中には	殊に(35) b の「世の中には
115	下 9	②名詞述語文の構成という段階	β名詞述語文の構成という段階
115	上 13	モノ+ダ」という構造が、	モノ+ダ」という構造が、
114	下 16	主格名詞が成立した	主格格助詞が成立した
112	下 4	第1節で見たように、	第1節で見たように、
108	上 15	⑥(解説)用法	⑥(解説)用法
98	上 15	モノダ・コトダ・ワケダ・ハズダ文	モノダ・コトダ・ワケダ文
96	下 2	論(納得)などの	(当為)(回想)などの
96	上 17	文の主要な意味類型としては(推	文の主要な意味類型としては(推
8	参・1	狩谷?斎(最上段2列目)	狩谷掖斎
		モノダ・コトダ・ワケダ・ハズダ文	モノダ・コトダ・ワケダ文